

## ちいさな証

夫が召されて

村上公子

日本キリスト教団大阪のぞみ教会会員



私と夫（幸夫）は2000年からスイス日本語福音キリスト教会の今村（娘夫婦）の家族と共にヨーロッパキリスト者の集いに毎年参加していました。その夫が2011年9月27日に78歳で天に召されました。その年の初め1月末に私の検査のためについてきた夫

に、かつて主治医だったその医師から、2年間も検診を受けていないのでダイナミックCTを撮るように勧められ、じゃあついでに、ということで撮った画像で、肝臓と胆管に癌が見つかり、あと半年～1年の命と告知されました。

化学者だった夫は70歳で洗礼を受け、クリスチャンになりましたが、洗礼を受けた動機は残り少ない人生を、妻と同じ方向で共に歩み、また2人で一緒に天国に行きたい、ということでした。夫は熱心に聖書の学びや教会の奉仕をしながらも、神様のことを心の内でただ信じるだけでいいのか？目に見えない、証明できない事柄に対して、もっと確信のもてる信仰を神様から頂きたいと葛藤していました。

辛い痛みも苦しい様子もなく、召される1ヶ月前まで、誰の目からもそんな状態とは知られないくらい普段通りの生活をしていました。この様な生活がずっと続くかのように思われるほど平安に、2人の生活が多くの皆様のお祈りによって神様に支えられていました。

最後の1週間は大阪の淀川キリスト教病院のホスピスに入りました。医師から家族の皆を呼ぶように言われて、スイスから娘の葉子が来た日に夫の様子が何か困惑しているような感じになったので、娘が枕元に駆け寄り「お父さん！苦しいの？」と聞くと夫は両手を高く上げて「天国に昇っていくようだ！天国に昇っていく！」と大声で叫びました。

それまで何度か見舞ってくれ、牧師をしている息子は来

るたびに「ハバクク書2章2～4」を夫の枕元で朗読していました。私はその時は何の事を言っているのかさっぱりわかりませんでした。

2、主は私に答えていわれた。「幻を書き記せ。走りながらも読めるように、板の上にはっきりと記せ。」  
3、定められた時のためにもう1つの幻があるからだ。それは、終わりの時に向かって急ぐ。人を欺くことはない。たとえ遅くなくても待っておれ。それは必ず来る。遅れることはない。」  
4、見よ、高慢な者を、彼の心は正しくありえない。しかし、神に従う人は信仰によっていきる。」

後になって私はハバクク書をすべて静かに読んだ時に、神様の御言葉の真実と深い慈しみに唯々感謝の涙がこぼれました。告知を受けてからの主人の祈りはそれまでと変わり、静かに神様と対話しているようでした。主人の最後の息まで見ていた義理の娘も、看護師さんも「あのように死ぬるのなら死は怖くない。本人が天国に昇っていくと言ったのだから。」と明るく笑って言いました。

「神様のなさることは時にかなって美しい。」アーメン

☆村上公子姉は、スイス教会会員・今村葉子姉のお母様で、これまでにご夫婦で幾度もスイス教会からヨーロッパ・キリスト者の集いに参加されたほか、スイス教会においても深いお交わりをいただきました。



村上幸夫兄がこよなく愛したスイス・アッペンツェル（左）六甲の山（右）